

「拓魂」

北海道上川郡美瑛町五稜

北海道のほぼ中央に位置する上川郡美瑛町は、なだらかな丘陵と緑豊かな自然環境が特徴の町。面積は約6万8千^{ヘクタール}で、人口は約1万人。気候は内陸性で寒暖の差が大きい。戦後開拓集落による広大な農地が美しい景観を形成している。

1945（昭和20）年、緊急開拓事業により、美瑛原野地区の旧・陸軍演習地6798^{ヘクタール}、ルベシベ地区の旧・御料林（皇室所有地）2716^{ヘクタール}が開拓地として開放された。東京や名古屋の被災者、復員軍人、外地からの引揚者らが続けて入植した。

48年、美瑛開拓農協と五稜開拓農協の2開協が創立された。開拓者は地域に応じて、それぞれの開協に所属した。

美瑛原野地区は開田、ルベシベ地区は開畑の計画だったが、人力で行わざるを得ない開拓は厳しかった。繁茂していた大木の抜根作業は重労働だった。岩石が多い場所もあり、開墾は容易ではなかった。

離農者が多かった。「美瑛町戦後開拓四十年史」（87年発行）によると、当初の入植者755戸のうち、現地を去った者は452戸の多きに達した。

かんがい施設及び飲料水施設が完成したのは64年のことだった。現在は、小麦やバレイショなどの畑作、稲作、酪農などが営まれ、農業が同町の基幹産業となっている。

町内には、いくつかの記念碑や記念塔がある。五稜神社の境内に設置されている石碑は、8年に建立されたもので、碑銘は「美瑛町五稜開基五十周年記念碑 拓魂」。

碑文には「美園地区73戸、五稜地区181戸の総数254戸の入植者に依って開拓された」とあり、「先人は、新地開拓に明日への希望を抱き、森林を伐採し、背丈を凌ぐ笹を刈り跡地を焼き払っては鋤を入れる、過酷な労働と厳しい自然と戦い、粗衣粗食など多くの苦難に耐え、不屈の精神力をもって開拓に励み肥土の大地に成し遂げ、昭和56年美園、五稜地区の合併を経て、今日の五稜郷が創られた」と記されている。裏面には、建立者全員の氏名が刻まれている。



美瑛町五稜開基五十周年記念碑

- ①所 在 北海道上川郡美瑛町
- ②設置年月日 平成8年11月7日
- ③設置者 入植者等
- ④碑 名 開拓碑
- ⑤碑文（表面） 美瑛町五稜開基五十周年記念碑
拓魂 美瑛町長 水上 博

この地は、明治32年以来帝国憲法により宮内庁が所管する皇室の財産御料林として管理されていた土地であったが、太平洋戦争の終戦による、未曾有の大混乱と激動の中で極度の食糧難による食料増産と失業者の就業を図るため、昭和20年に緊急開拓事業が実施され、東京、名古屋方面から終戦疎開者を中心とした美園地区の開拓が始まり、その後、昭和22年大阪方面の開拓者に樺太、満州からの海外引揚者と、昭和29年に全国各地から16戸の入植をもって、美園地区73戸、御領地区118戸の総数254戸の入植者に依って開拓された。

これらの先人は、新地開拓に明日への希望を抱き、森林を伐採し、背丈を凌ぐ笹を刈り跡地を焼き払っては鋤を入れる、過酷な労働と厳しい自然と闘い、粗衣粗食など多くの苦難に耐え、不屈の精神力をもって開拓に励み肥土の大地に成し遂げ、昭和56年美園、五稜地区の合併を経て、今日の五稜郷が創られた。

開拓50周年を迎え、多くの先人の業績を讃え更なる五稜郷の発展と飛躍を願いこの功績を永く後世に伝えるため、現住者と五稜地区ゆかりある方々の賛助に依り記念碑を建立する。

平成8年11月7日 建立

- ⑥碑文（裏面） 50周年記念碑建立者名
- ⑦現在の状況 五稜神社境内で管理されている。

碑 文

この地は、明治32年以来帝国憲法により宮内庁が所管する皇室の財産、御料林として管理されていた土地であったが、太平洋戦争の終戦による、未曾有の大混乱と激動の中で極度の食料難による食料増産と失業者の就業を図るため、昭和20年に緊急開拓事業が実施され、東京、名古屋方面からの終戦疎開者を中心とした美園地区の開拓が始まり、その後、昭和22年大阪方面の開拓者に樺太、満州からの海外引き揚げ者と、昭和29年に全国各地から16戸の入植をもって、美園地区73戸、五稜地区181戸の総数254戸の入植者に依って開拓された。

これらの先人は、新地開拓に明日への希望を抱き、森林を伐採し、背丈を凌ぐ笹を刈り跡地を焼き払っては鋤を入れる、過酷な労働と厳しい自然と戦い、粗衣粗食など多くの苦難に耐え、不屈の精神力をもって開拓に励み肥土の大地に成し遂げ、昭和56年美園、五稜地区の合併を経て、今日の五稜郷が創られた。

開拓50周年を迎え、多くの先人の業績を讃え更なる五稜郷の発展と飛躍を願いこの功績を永く後世に伝えるため、現住者と五稜地区ゆかりのある方々の賛助に依り記念碑を建立する。

平成8年11月7日 建立

